



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：MERS の拡大の恐れ

サウジアラビアにおいて中東呼吸器症候群（Middle East Respiratory syndrome; MERS）が拡大する兆しを見せている。4月28日から5月5日、世界保健機構（WHO）の代表団がサウジアラビアを訪問し、MERSの伝染状況について調査を行った。5月7日に発表された報告書によると、早急な調査と感染拡大の阻止に向けた措置が必要であるものの、現段階では入国時の特別なスクリーニングや、渡航・貿易の制限などを勧告するものではない。

MERSとは、SARSによく似た新型のコロナウイルスを病原体とする症例であり、人間への最初の感染例は2012年9月にサウジアラビアで発見された。5月7日の報告書によると、2012年から今日までに536件の人間への感染が確認されており、そのうち145人が死亡している。感染すると、2～15日の潜伏期間を経て、発熱、せき、息切れ、肺炎、下痢、腎障害などを引き起こす。現在、特別な治療法やワクチンは見つかっていない。

2014年3月27日からは330件の新たな感染が特定されており、ここ1カ月で感染数が急激に増加していることが分かる。330件の内訳は、サウジアラビアが290件、UAEが37件、ヨルダンが2件、イエメンが1件。サウジ国内では、290件のうち、128件がジッダ、86件がリヤード、35件がマッカ、15件がマディーナ、10件がタブーク、3件がナジュラーン、13件がその他の地域となっている。UAE国内では、37件の全てがアブダビから報告されており、そのうち28件がアル=アイン市からとなっている。

WHOの報告書は、ラクダが感染源の可能性はあるものの、それが人間への直接的な感染なのか、あるいは間接的な感染なのかは依然として不明としている。また、人間から人間への二次感染を示す証拠は確認されていない。5月11日にはサウジアラビアの保健省が、ラクダがMERSの感染源となっている可能性が高いとの声明を発出した。また、農業省は、ラクダとの不要な接触を回避し、接触する場合はマスクや手袋の装着、手洗いの励行、ラクダの肉やミルクは加熱してから口にするよう呼びかけている。

域外の感染者の多くはサウジアラビアへの訪問者である。特にサウジアラビアは、世界各地からイスラーム教徒の巡礼を受け入れているため、今後の対応次第では諸外国に感染が広まる可能性もある。サウジアラビアでは4月21日に保健大臣が異動しているが、MERSへの対応の不手際の責任をとらされたと見られている。

（村上研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799